2040年代の東京の都市像とその実現に向けた道筋について　中間のまとめ【骨子】

第１章　2040年代に想定する社会変化の見込み

１．2040年代の社会の状況

○ 外国企業の誘致や外国人人材の受入が進展、世界の人々の往来が活発化
○ 高齢者の健康寿命の延伸と子どもたちが夢や希望を持てる社会の実現
○ ライフスタイルの多様化が進展、創造的な芸術・文化活動が増加
○ 未曽有の自然災害やテロ、サイバー攻撃などの危機への対応

２．社会の変化を支える技術革新

○ 完全自動走行システムによる自動車の公共的な活用の普及
○ エネルギーの地産地消の進展、CO_2フリー社会の構築
○ 人工知能（ＡＩ）・ロボットの導入による労働力の確保
○ ＩＣＴの進展による産業の高効率化や新たなサービスの提供

第２章　2040年代に果たすべき東京の役割

１．世界における役割

○ 包容力のある都市として「多様な人々・文化の交流」を担う
○ 都市課題に直面する都市として「先駆的な解決モデルの発信」を担う
○ 伝統と先進の融合する都市として「新しい文化価値の創出」を担う

２．日本における役割

○ 日本の首都として政治・経済活動の推進力を発揮する
○ 様々な地域との連携により、いっそう魅力的な日本を創造・発信する

第３章　2040年代に目指すべき東京の都市像

○ 目指すべき都市の基本的な考え方となる理念と、進むべき方向性を示す目標、都市構造、地域像を以下のように考える

１．目指すべき都市の理念

○ 高度な都市機能の集積とグローバルな人・モノ・情報の交流により、世界中の人々から新たな価値を生み続ける場として選択される都市

○ 個性ある多様な地域・拠点において、あらゆる人々が挑戦、活躍でき、質の高い住まい方・働き方・憩い方を選択できる都市

２．都市づくりの目標

（１）経済活力の向上のための拠点づくり
（２）人・モノ・情報の自由自在な交流の実現
（３）災害リスクと環境問題に立ち向かう都市の構築
（４）ライフスタイルに応じて選択できる場の提供
（５）生活を支える拠点への集約化と多様なコミュニティの創出
（６）四季折々の美しい緑と水を編み込んだ都市の構築
（７）芸術・文化・スポーツによる都市の新たな魅力の創出

３．目指すべき都市構造のイメージ　※ 附図1

○ 環状メガロポリス構造を発展させ、より広域的に**「交流・連携・挑戦」を促進する都市構造へ転換**
○ 「国内外の人・モノ・情報の自由自在な移動と交流」を実現し、経済活力を向上させ、多様なライフスタイルやコミュニティを創出

○ 環状方向の道路ネットワークに加え、放射方向も含む道路・鉄道ネットワークを最大限活用・進化させ、網の目状の交通網を形成
○ 国際競争力などの観点から必要な道路・鉄道ネットワークや空港・港湾機能の強化
○ 東京圏全体で首都機能を担うため、広域的な交通ネットワークの結節点に位置する６つの広域拠点が交流機能を発揮し、日本各地や海外と交流・連携
○ 地域特性を映し出す「個性ある多様な拠点」を各所に生み出すとともに、それらを公共交通や緑と水の軸で結びつけ、相互に刺激し、磨き上げていくことが重要
○ 「業務機能を重視した受け皿の育成」の視点から脱却し、「地域の個性やポテンシャルを最大限発揮し、競い合いながら、新たな価値を創造する個性ある多様な拠点」へ再構成
○ 東京ならではの特性などを踏まえながら、それぞれの地域において、身近な暮らしを支え合う地域コミュニティを基礎とした集約型地域構造への再編を目指す

４．地域像（地域別のイメージ）※ 附図2

○ 都市機能の集積や地域特性、インフラの整備状況、今後の社会変化の動向など、将来を見据えた新しい**４つの地域区分**へ再編
○ 重ねて、日本と東京圏の持続的な成長と活力をリードするエンジンとしての役割が期待される**２つのゾーン**を設定

○ (仮)中枢広域拠点域では、国際的なビジネス・交流の拠点や芸術・文化など個性ある多様な拠点、複合的な中高密度の市街地が形成
○ (仮)都市環境共生域では、緑と水に囲まれたゆとりある市街地や駅周辺に機能集約された拠点を形成
○ (仮)多摩広域拠点域では、リニア中央新幹線や圏央道などのインフラを活用し、広域的な交流が活発に行われ、研究・学術・ものづくりなどの拠点を形成
○ (仮)自然環境共生域では、人々をひきつける豊かな自然環境や地域資源を活用し、二地域居住やサテライトオフィス、環境教育、スポーツなどの多様な機能を付加することで、地域の魅力を向上

○ (仮)国際ビジネス交流ゾーン（(仮)中枢広域拠点域内）では、国際的なビジネス・交流機能の強化とその持続的な更新が図られている
○ (仮)多摩イノベーション交流ゾーン（(仮)多摩広域拠点域内）では、積極的に「挑戦」できる環境が整い、多様なイノベーションが生み出されている

第4章　都市像の実現に向けて

１．すべての取組において共通に留意すべき視点

○ 調査・計画、整備・開発、維持管理・活用、更新と一連のサイクル全体を意識し、**都市をマネジメント**する視点を持つ
○ 都市の魅力を創出し、効果的・合理的な都市づくりを進めるため、幅広い**「民」の実力や知見**をこれまで以上に生かす
○ **都と区市町村の明確な役割分担**と緊密な連携により計画的な都市づくりを進める

２．取組の方向性

（１）経済活力の向上のための拠点づくり
○ (仮)国際ビジネス交流ゾーンにおける拠点の形成と持続的な更新
○ 幅広い分野において新たな価値を生み出す拠点の形成
○ 地域の個性を最大限発揮した個性ある多様な拠点の創成

（２）人・モノ・情報の自由自在な交流の実現
○ 拠点間の連携に向けて、道路・鉄道ネットワークの更なる強化
○ 道路・鉄道などのストックを生かし、ゆとり空間や交流を創出
○ 地下鉄駅など重要な交通結節点の複合的な機能強化
○ 最先端の技術の導入による効率的な物流ネットワークの構築
○ 舟運ネットワークの形成と水辺に顔を向けたまちづくり
○ ＩｏＴ技術を活用した情報都市空間の整備

（３）災害リスクと環境問題に立ち向かう都市の構築
○ 都市づくりに、防災・減災や事前復興の視点を組み込む
○ 次世代にもつながる計画的・長期的な対策と都市の余白の確保
○ 面的エネルギー利用などによるCO_2フリー社会の実現

（４）ライフスタイルに応じて選択できる場の提供
○ 多様なライフスタイルに対応する居住、憩いなどの場の提供
○ 地域包括ケアシステムなどの総合的な福祉サービスとの連動
○ 子育て世代の生活支援など、少子化に歯止めをかける都市づくり

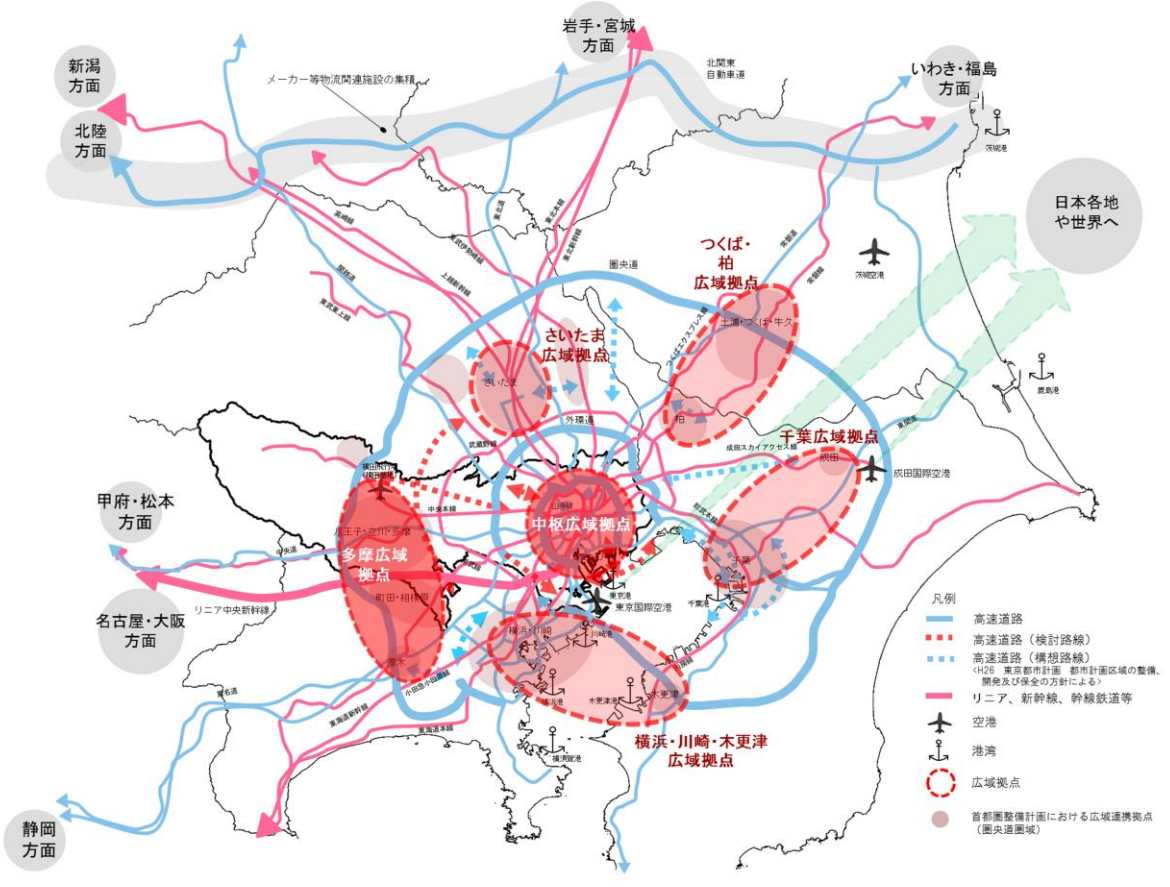
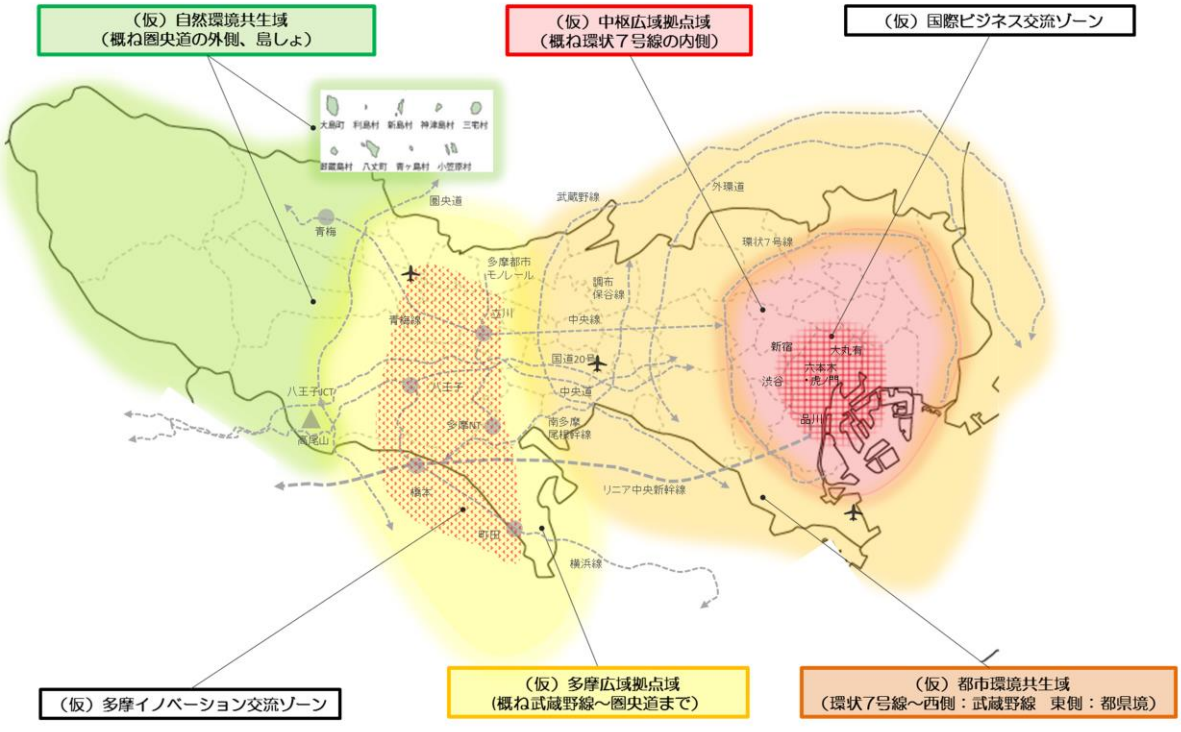
（５）生活を支える拠点への集約化と多様なコミュニティの創出
○ 広場空間や防災機能の確保など駅と一体となった都市づくり
○ 多様なニーズに対応する質を重視した都心居住へ転換
○ 都市づくりの財産として使える空き家・空き地・公的不動産を活用
○ 東京の地域特性、交流・連携を考慮した立地適正化計画の策定

（６）四季折々の美しい緑と水を編み込んだ都市の構築
○ 緑と水を編み込んだ都市づくりによりゆとりやうるおいを創出
○ 都市の貴重な資源として農地を保全・創出し、多面的に活用

（７）芸術・文化・スポーツによる都市の新たな魅力の創出
○ 多様な人材を魅きつける芸術・文化・歴史を織り込んだ都市づくり
○ 観光・にぎわい創出などに資するスポーツ環境が整った都市づくり
○ 道路・公園など公共空間を公民一体の空間として活用

2040年代の東京の都市像とその実現に向けた道筋について　中間のまとめ【骨子】

附図１（都市構造図）



附図２（地域区分図）